

ASC2023 報告書

神戸支部 4 年 渡邊青志郎

神戸支部 4 年 黒田凱

大阪支部 4 年 田中愛梨

岡山支部 2 年 藤森さくら

岡山支部 2 年 近藤有華

岡山支部 2 年 横田利奈

岡山支部 2 年 山本絵未里

神戸支部 2 年 安田子恩



1. 団長挨拶

神戸支部四年 渡邊青志郎

コロナウイルスの影響もあり、五年ぶりに開催された今回の韓国 ASC。日本からの参加者はわずか八名だけであり、韓国の参加者の方々との面識ありませんでした。そのため、実際に活動が始まる前は不安な気持ちが大きかったことを覚えています。しかし、そんな私たちを韓国の皆さんは賑やかに、そして優しく歓迎してくれました。日本人の私たちと積極的に交流したいという相手の思いが伝わり本当にうれしかったことを覚えています。初めこそ緊張はありましたが、活動を重ねるごとにお互いが仲良くなろうと声をかけ始め、非常に良い雰囲気が出来上がっていったと思います。そこに言語の壁はほとんどありませんでした。二日目にはすっかり皆打ち解けることが出来たと思います。途中、体調不良者が出るといったトラブルがありましたが、皆が真剣に話し合って一生懸命に対応することで、お互いがお互いを思いやるという気持ちがより一層強く芽生えました。四泊五日の日程は、非常に早く過ぎ去っていったことを覚えています。

最後になりますが、参加者の皆さんには団長として頼りない私を沢山支えていただき、本当にありがとうございました。皆さんにとっても今回の ASC が特別で、かけがえのない経験となっていたら嬉しいです。是非、支部に戻ったら後輩の方々に海外交流の魅力や喜びを沢山広めてください。そうすることで、I.S.A.全体の海外派遣活動がより一層活発なものになっていくと考えています。

ありがとうございました。

2. 参加者名簿

役職	名前	支部	学年	大学
団長	渡邊青志郎	神戸	4	甲南大学
副団長	田中愛梨	大阪	4	関西外国語大学
財務	安田子恩	神戸	2	神戸女学院大学
国際渉外	近藤有華	岡山	2	ノートルダム清心女子大学
文化紹介	黒田凱	神戸	4	甲南大学
報告書	山本絵未里	岡山	2	ノートルダム清心女子大学
合宿	藤森さくら	岡山	2	ノートルダム清心女子大学
広報	横田利奈	岡山	2	ノートルダム清心女子大学

3. 日別活動報告

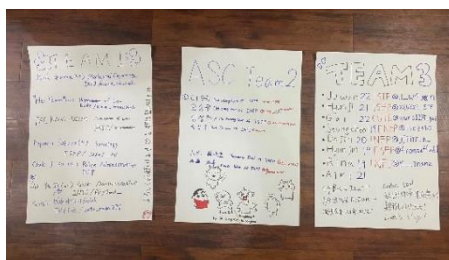
8月16日(1日目) 神戸支部 黒田凱

何日か前から日本に接近していた台風の影響で飛行機が欠航になるか心配だったが、無事に飛行機を変更することなく出発することが出来た。二名のメンバーが乗る予定の飛行機が台風の影響で乗ることが出来ず、途中から合流することになった。光州松汀駅に少し遅れて到着すると韓国の方が車で迎えに来てくれ、遅れたことを謝ると、それよりも疲れてないかと心配をしてくれたりスーツケースを運んでくれて、韓国の方は紳士な方が多いというのを聞いていたが本当だったのだと実感した。大学につくと手厚く歓迎されて、ここに来るまでの道中の話や日本の話などの会話をした。

その後全員が合流してからバスで料理屋に移動した。席に着くとすぐにキムチやナムルなどがテーブルいっぱいに出てきて、これは何かと尋ねると、韓国の料理屋では必ず出てくる突き出しだと聞いて、その数の多さに驚いた。その店ではトッカルビがメインで、そのまま食べたりやサンチュの巻き方を教えてもらって食べた。他にもスープの中に入っている「ソンジ」という牛の血の塊も食べたが、少し生臭く自分は苦手な味だった。「ソンジ」は韓国の人でも好き嫌いが分かれる料理だそうで、おばあちゃんの家に行くと必ず食べさせられ、それが嫌だと言っていた。韓国料理は辛いイメージがあり、実際に食べると日本の同じ食べ物よりさらに辛かったが、どれもとても美味しかった。

夕食を食べ終わると一日目に泊まる宝城に移動した。荷物整理や少し休憩をした後、自己紹介タイムとグループに分かれて会話をした。会話は英語がメインで、自分自身英語が得意ではなかったので不安だったが、みんなしっかり会話を汲み取って聞いてくれとても充実した時間だった。韓国の方は基本的にみんな英語が話せて、日本語を話せる方もほとんど独学で学んだと聞いて、語学力の高さにとても感心した。

自己紹介タイムが終わると自由時間になり、また少し色んな会話をしてこの日は疲れていたのもあったので早くに就寝した。



8月17日(2日目) 岡山支部 横田利奈

Boseong で過ごす初めての朝。私たちは Boseong Green Tea Resort の二階建てのコテージに泊まった。予定では9時から10時までに起床して朝ご飯を食べるということだったので、その時間まで日本人メンバーは7時半くらいに起きてメイクやヘアセットをしていたが、韓国人メンバーで朝シャンをしている人が結構いて、日本では朝シャンを習慣的にすることは珍しいと思うので、少し驚いた。朝ご飯はあんパン、クリームパン、そばろパンのなかから一つ選んで、ミニッツメイドのオレンジジュースと一緒に食べた。

その後、Korea Tea Museum に行った。滞在した Boseong は緑茶の産地らしく、韓国のお茶の展示や歴史の解説、茶室などの展示を見た。Museum の展示はとてもおしゃれでフォトスポットも多くあり、みんなでお互いの写真を撮り合っていた。韓国人メンバーはみな写真を撮られるときのポージングが完璧で自己プロデュース力の高さに驚いた。加えて、「写真撮ってほしかったらいつでも言ってね！いくらでも撮ってあげる！」と言ってきて、素敵な写真をたくさん撮ってもらえてとても嬉しかった。その Museum の最上階は全面ガラス張りで Boseong Green Tea Resort の周辺を一望できた。そしてそこには韓国のプリクラの機械があり、念願の韓国のプリクラを撮ることができて、いい思い出になった。この後、お茶のブレンド体験をした。作ったお茶は2種類で、緑茶美人茶と幸せを夢見る茶という名前だった。現地の方がすべて韓国語で説明してくださったのもあって、作り方も最初全く分からなくて困っていたが、韓国人メンバーが翻訳機を使ったり、ジェスチャーで教えてくれたりしたおかげでなんとか完成できた。まだ、飲んではいないが、とても飲むのが楽しみである。

お昼になってコテージに戻り、ラーメンパーティーをした。各自持ってきていたラーメンをシェアして食べたが、韓国のラーメンは辛いというイメージだったが、意外と辛い物も多く、いろんな味を食べることができたし、韓国流のラーメンの食べ方を知ることができたので、日本でも実践しようと思う。

ご飯の後、コテージの近くの Yuipo Beach に行った。海ではチームにわかれてにリレー式のゲームをした。内容は二人三脚や借り物競走などで、短時間だったが、とても盛り上がった。この後みなで海に入った。比較的浅い海だったので、みんなで座って、ゲームをしたり、水を掛け合ったりいろんなことを話した。これがあったからこそ距離が縮まったと思う。この後、近くの温泉に入ったが、あまり日本の温泉と変わらなくて驚いた。

晩ご飯は中華料理でジャージャー麺を食べた。韓国の麺はとても長くて、麺を切る用のはさみが用意されていることにも驚いたし、私はご飯の量が多くて残してしまい申し訳なかったが、それを韓国人メンバーに伝えたと残しても「全然大丈夫だよ〜、お店の人に美味しかったですと伝えれば大丈夫だよ」と言ってくれ

た。実際にほとんどの人がご飯を残していたので、料理を残しても大丈夫なのは文化の違いなのかなと思った。

コテージに戻って少し休憩した後、台風の影響で到着が遅れていた日本人メンバーも合流し、やっと ASC メンバー全員がそろうことができた。そこではみなでディスカッションをした。韓国人と日本人の恋愛観の違いを考えさせられたし、翻訳機を使いながらだったが、あまり意思疎通には困ることはなかったし、話が盛り上がってとても楽しかった。このあとは自由時間でみんな夜遅くまでお菓子を食べながらおしゃべりをして、仲を深めることができた。



8月18日(3日目) 岡山支部 近藤有華

朝は時間が押していて、最初に予定されていた tea garden がなくなっていたことに書いていて気が付いた。朝ご飯は餅とアイスという変な組み合わせだった。日本人にもなじみのあるきな粉がかかっている餅があったが、韓国で初めて見る乾燥させた小豆をつぶしたもののをのせている餅や黄色、ピンク、緑色の餅などがあった。アイスはお茶とレアチーズケーキの味があったが、どちらもさっぱりしていておいしかった。みんないろんな餅を食べてもらいたいのか、とても勧められた。朝から餅とアイスを食べることにとても不思議に思った。その後宿舎を移動するために、荷物をまとめてバスに乗せた。宿舎がとても自然豊かなところであったため、景色がすごく良く、バスの移動中に窓を眺めていることも楽しかった。

お昼には前日に各自選んだカンジャンケジャンやプルコギなどを食べた。カンジャンケジャンは初めて食べるので、どうやって食べるのかを聞きながら食べた。足の部分もおいしかったが、私は味噌のある体の部分が好きだった。付け合わせのものもとても美味しく、いろんな種類のものがあった。朝ご飯とお昼ご飯の間隔が短かったので、みんなあまり食べずに残っていた。韓国では、食事を全部食べることは少ないと言っていたが、今回のお昼ご飯はたくさん残っていたような気がする。

ドラマの撮影所のようなところに行って、昔の制服を着ることができた。日本で言うヤンキーのような人は韓国にもいて、その人たちの制服がシマウマみたいでとても面白かった。ミッションを与えられ、そのミッションの場所で写真を撮った。少し広いところに出ると、男性たちはリヤカーに何人か乗りそれを一人で引っ張ったり、女性たちは写真を撮ったりして楽しんでた。私の班では、散策途中でカラオケを見つけ、みんなで歌った。得点が出るものだったので、競争をした。罰ゲームがあるわけではなく、ただ単に楽しんだだけだった。

順天湾国立庭園に移動して班ごとに活動した。しかし、みんな考えることが同じなのかほとんど団体行動と変わらないところが面白かった。みんなバスで見て回った。やはり韓国人は自撮りが好きなのかバスでは、とても写真を撮りまくっていた。途中までは団体行動であったが、ハングルの橋を渡った後、私たちの班はカフェに行き飲み物を飲んだり、アイスクリームを食べたりした。すべて回る時間がなかったのは、少し残念だがとても楽しかった。

晩ご飯を作るために、みんなで買い物に行った。普通の旅行では、韓国のマートに来ることはないと思うので貴重な体験だと思った。とても大きなマートであったため、一人で行くと必ず迷うと感じた。買うべきものを選び終わったら、何か欲しいものはないか？食べてみたいものはないか？と尋ねてくれて、タイ焼きのお菓子の様なものや有名なヨーグルトを買ってもらった。この日は新しい宿舎に移る日だったので、みんなで荷物を運んだ。その後韓国の人たちが晩ご飯を準備してくれた。キムチチゲを作ってくれた。私はあまり辛くなかったのだが、みんな辛いと言っていた。みんな味覚が違っていたことが面白かった。けど、おいしいとも言っていて残さずに食べていた。



8月19日(4日目) 神戸支部 安田子恩

この日は、朝から宿泊先の食堂でキムチチゲ鍋を食べた。日本では朝から鍋を食べることがあまりなく、朝から辛い物を食べることもあまりないので文化の違いにとっても驚いた。

そこから準備をしてバスで樂安邑城民俗村に移動した。目的地に着くとまずお昼ご飯を食べた。私は、ビビンバを注文した。日本のビビンバはお肉が入っているが、ここで食べたビビンバにはお肉が入っていなかった。辛さは自分で調節するようになっていて、韓国の参加メンバーの方がいいからさに調節してくれた。とてもおいしかった。ビビン麺も少し分け

でもらったが、とても辛かった。韓国のかき氷であるピンスも食べた。日本のかき氷とは違い、コンフレクやチョコソース、小豆、お餅がのっていた。とても甘くて美味しかった。

昼ご飯を食べ終わると、染色体験をした。白い布に輪ゴムをつけて、少しピンクっぽく青い染色液に布をつけると最初は緑だが、空気に触れると酸素と反応して青に変化していった。その色の変化が面白かった。

その後、出口まで歩いた。とても暑かったが、韓国の昔の街並みを見れたり韓国の参加メンバーの方達と話して仲良くなれたので良かった。

その後は、公共貸し出しスペースに移動してみんなでゲームをした。一つ目はお題のポーズを班員がして、何人ポーズが揃うかというゲームをした。私たちの班は簡単だと思った動物というテーマを選んだが意外と揃わなくて難しかった。二つ目のゲームは、ことわざを絵で伝えて最後の人がなんのことわざなのかを当てるというゲームをした。高嶺の花ということわざは韓国では直接日本語にすると絵にかいた餅という意味になる。そのため同じ意味で使われていることわざでも花と餅なので使われているものが違うため伝わらないということがあります、難しかった。三つ目のゲームは 1 人ずつ小さなミッションをクリアしていった班員全員が時間内にミッションをクリアするというゲームだった。一人目は 8 個くらいのおはじきを掌にのせて上に投げ上げて手の甲にのせるゲームだった。韓国の参加メンバーは慣れているのか、スムーズにできる人が多かったが、日本の参加メンバーは苦戦していた。次はペットボトルを投げ上げて立たせるゲームだった。これは簡単そうだが、みんな苦戦していた。3 人目は羽のついたボールのようなものを 3 回リフティングするゲームだった。3 回目に失敗するケースが多くてもどかしかった。4 人目はティッシュを 3 回吹き上げるゲームで、油断していると失敗するので油断大敵という感じだった。そして最後に民で紙の上にボールを転がしてダンボール入れるゲームだった。これらすべてを時間内にやり遂げるのは難しく、どの班もやり遂げることができなかったが、応援し合ったり協力したりできたので仲が深まってよかった。最後にプレゼント交換をした。これは韓国に行く前からプレゼントを考えて用意していたのでとても楽しみだった。日本人同士、韓国同士の交換が多発してしまったが、後で交換し合って日本人と韓国人がうまく交換できたからよかった。とても楽しいゲーム大会だった。

そして宿泊施設に戻って、韓国の参加メンバーの方達がサムギョプサルとチゲ鍋とビビン麺を作ってくれた。サムギョプサルは、お肉とサンチュという葉の相性が良くてとても美味しかった。チゲ鍋は日本人メンバーが食べられるようにあまり辛い味付けのものも作ってくれていたのが美味しく食べられた。ビビン麺はとても辛いので、全然食べられなかった。夕食後はみんなが持ち寄ったお菓子を食べた。韓国の子のお菓子は日本のこのお菓子に似ているということや、日本のこのお菓子は韓国のこのお菓子に似ているということを話すのが楽しかった。また、韓国のお菓子には日本にはないような味や食感のものもありそういう発見をするのが面白かった。また、韓国の参加メンバーの方が日本のお菓子を美味しいと言ってくれたのも嬉しかった。最後の夜ということで、日本人メンバーは韓国について

知りたいこと、韓国人メンバーは日本について知りたいことをそれぞれ質問し合い、韓国について多くのことを知れたのでとても楽しい夜になった。



8月20日(5日目) 大阪支部 田中愛梨

ついに最終日、学校に向かうバスの中ではいつもなら音楽が流れてにぎやかな雰囲気だったが、これまでの疲れもたまっていたのか静かなバスの中で学校に向かった。

学校到着後、朝食兼昼食にピザとチキンをみんなで食べた。今まで食べたことがなかった さつまいもピザが特に美味しくて、また韓国に来た時には絶対に食べようと思った。ご飯を 食べた後は参加者一人一人に寄せ書きを書いた。書いている中で、あまり話せていない韓国 メンバーが何人かいたので積極的に話にいけばよかったなと少し後悔した。時間をかけて 全てのメンバーの寄せ書きを書き終え、待ちに待った自分の寄

せ書きを読んだ時、話したことを覚えていてくれていて、また会おうと書いてあったことにすごく嬉しくなった。

とうとうお別れの時間、参加者たちが最後お互いに握手をしたりハグをしたりする中、プログラム中の思い出を振り返って改めて参加して良かったと感じた。みんなが名残惜しく解散する中、時間がある人だけでカラオケに行ったが、韓国メンバーの歌がとても上手で驚いた。韓国のカラオケも行ってみたかったので最後に行くことができて嬉しかった。このプログラムで、光州という外国人観光者がほとんどいない場所で、勉強した韓国語や 英語を使い、意思疎通ができたことでさらに語学力を伸ばしたいと思った。また、インターネットの情報で知っていたこと以外にも参加するまで知らなかった韓国の文化や生活、光州の方言なども知ることができ、とてもいい経験ができた。



4. 参加者の声

ASC では、個人の旅行では到底できないような経験ができ、私の最高の夏の思い出となりました。お互いが違う言語を話す者同士のため、最初は意思疎通するのにかなり時間がかかり、少しぎこちなさがありました。英語や翻訳機を使ってお互いの伝えたいことを伝え合い、時間と共に言語の壁を感じなくなりました。韓国で生活してみて、日本と異なる文化を沢山経験することができ、凄く良い人生経験にもなりました。ASC で出逢い、友達になった韓国人の方とは今も SNS を通じてお話をしています。ASC に参加して沢山の友達と思い出ができました。参加して本当によかったです。

岡山支部 山本絵未里

参加前は5日間も初対面の、しかも言語も違う方々と一緒に過ごすことに少し不安を抱いていましたが、そんな不安を吹き飛ばすくらい初日から韓国人の優しさに触れ、楽しく充実した時間を送ることができました。私は今回の活動の個人的な目標として、「積極的に自分から韓国の方々の輪に入っていく」ということを掲げていました。初めは少し躊躇してしまう場面もありましたが、勇気を出して話しかけてみると、私が下手な英

語や韓国語で話しかけても、とても優しく最後まで目をみて話を聞いてくださり、言語が違って、お互いに関わりたい、仲良くなりたいという強い気持ちがあれば、コミュニケーションをとることができるということを強く実感しました。また韓国の ISA の方々がとても素敵なプランを準備してくださり、個人旅行ではできない貴重な経験をたくさんさせていただき、すべてが新鮮で本当に充実した絶対に忘れることはない5日を過ごすことができました。期間中も私たち日本人を楽しませたい、良い経験をしてほしい、という気持ちがひしひしと伝わってきて、とても感動しました。この気持ちを次は私たちが受け取り、来年冬に行われる JKSC で恩返しをしたいと思います。

たった5日間という短い期間ではありましたが、今までの人生の中で最も濃く、記憶に残る、宝物となった5日間でした。1か月たった今でも余韻が残っています。これはきっと韓国人日本人ともに全ての ASC メンバーのおかげです。このメンバーに出会えたことに感謝し、これからも絆を深め続けていきたいと思います。

岡山支部 藤森さくら